

2009 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	社会福祉学基礎演習 I		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

秋学期は、初め全体クラスがあり、先生方の社会福祉分野に関するさまざまなお話を伺うことが出来ました。改めて、社会福祉と一口に言っても幅広いなと実感しました。3・4回生になると、どうしても自分の卒業論文に関する分野を重点的に学ぼうとするので、1回生や2回生のうちにこのような幅広い分野を学習することは、視野を広げる意味でもとても良いことだと思いました。

小クラスでは、先生のご都合により主にT Aの木内さんと授業を進めていきました。『当事者主権』という本を輪読することとなり、1章を2人が担当して毎回2～4人の個人発表を行いました。初めのうちは、1回生の中頃ということもあってか、欠席者が多く人数が集まらなかったのが、感想を言ってもらったり、発表者に疑問を言ってもらったりしていました。しかし、途中から発表者が1つ議題を考えてきて、それらを3～4人のグループで話し合い、最後にクラス全体で共有するようにしました。すると、今まで発言が少なかったクラスが一気に盛り上がり、意見を活発に交換してくれるようになりました。私は、そのグループの様子を伺って、議論に行き詰っているグループにはもっと考えやすいように具体例を話したり、議論が一つに固まりすぎているところにはあえて逆の意見を言ってみたりしました。それに対してまた1回生が真剣に考えてくれて、ちゃんと色々な角度から物事を捉えたり、前回の授業で話したことにつながりを感じ、次の授業で生かしてくれたりしていました。個人発表は、初めは慣れない様子の人もいましたが、中にはすごくよく調べていたり、内容を的確に掴み、要約出来ている子がいたり、更には筆者の意見に同意するだけでなくきちんと反対意見も考えられている子もいて、1年間ですごく成長しているなど感じました。

チューターによるシンポジウムでは、卒論についてと学生生活4年間を振り返ってというテーマで発表しました。卒論のことは1回生にはまだ早いかと思いました。4年間はあっという間に過ぎるので、先を見据えて行動することが大切であると感じたので、少しでも先のことを考える機会は多い方が良いと思いました。

この1年間チューターをして、自分自身の1回生の時を振り返ることも多く、考える機会も増えましたし、1回生と共に学ぶことで、4回生の授業だけでは学ぶことのできない新鮮なものの考え方や、先生方の貴重なお話、他のゼミのチューターの卒論の話などが聞けて、大変貴重な経験が出来ました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

小クラスは、せつかくの少人数なので、お互いの意見を活発に交換し合える環境を作ってあげると良いと思います。授業に自発的に参加するので学びも深まるし、私自身の経験としても、授業や本を読んで得た知識を友達と熱く語り合うことで、その知識を自分のものにすることができたし、色々な人の考えを知ることも出来ました。そしてそれは、後々ずっと覚えており、卒論制作時にも役立ちました。まさにこの意見交換こそが大学に通う意義であると思うので、まずは話しやすい雰囲気を作り、学生でもわかりやすく比較的意見が分かれやすい議題を選び、チューターはより議論が盛り上がるよう分かりやすい言葉で話すと良いのではないかと思います。